

経営組織論	教 授 丸山高行
-------	----------

1. 授業のねらい・概要

企業などの組織の基本的な構造やマネジメント方法が、論理的かつ体系的に身につくことを目標とする。具体的には、経営組織論の基礎、企業内の組織構造、組織マネジメント、組織形態の変革、経営組織に対するガバナンスという5つのパーツから、経営組織論の基本領域を学ぶ。

2. 授業の進め方

基本的には、参考文献等に基づき講義形式で行うが、一方通行の授業ではなく随所でケース・スタディを提示し、相互ディスカッションを含め、共に考える時間をとるようにする。

3. 授業計画

1. イントロダクション： この科目の講義内容、進め方や評価方法 2. 経営組織論の基礎(1)： 組織とは何か、経営組織論でどのようなことを学ぶのか 3. 経営組織論の基礎(2)： 経営組織論の歴史と位置づけ、経済学や法学との関係 4. 企業内の組織構造(1)： 株式会社を中心とした会社法上の機関設計 5. 企業内の組織構造(2)： 組織構造の各種基本型、部・課および事業部制 6. 企業内の組織構造(3)： プロジェクトチームなど、柔軟性を重視した組織形態 7. 組織のマネジメント(1)： 基本的な意思決定体制およびリーダーシップ	8. 組織のマネジメント(2)： 生産性を高める仕組みとしての人事制度、給与体系 9. 組織のマネジメント(3)： 企業年金を含め各種福利厚生制度の意義、普及状況 10. 組織のマネジメント(4)： 企業内の分業・調整についての基本的なモデルや考え方 11. 組織形態の変革(1)： 合併や会社分割などのダイナミックな組織変革 12. 組織形態の変革(2)： 持株会社設立を通じたグループ形成、会社形態の変更 13. 経営組織に対するガバナンス(1)： 社内におけるガバナンスとしてのリスク管理 14. 経営組織に対するガバナンス(2)： 社外からのガバナンスとしてのコーポレートガバナンス 15. 全体のまとめ： これまでに学んだことの整理、今後の課題の提示
---	--

4. 到達目標

経営組織論の基礎が、論理的かつ体系的に身につくことを目標とする。また、組織形態の変革やガバナンスなど、ホットな話題にも適宜触れるので、関心のある業界や企業について、より深く研究しようという意欲が高まることを期待する。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

随所でケース・スタディを提示するので、予習として、問題点の整理や解決方法の模索を行ってほしい。また、授業後は、参考文献・ノート等に基づき復習して、自分なりに講義内容を体系立てて身につけておくことが望ましい。

6. 成績評価の方法・基準

100点満点の評価を、次の3つの要素に分ける。①授業に対する受講姿勢(20点)、②随所で提示されるケース・スタディについて課されるレポートの内容(20点)、③期末試験の成績(60点)。

7. テキスト・参考文献

参考文献として、金井壽宏『経営組織—経営学入門シリーズ』日経文庫をあげておく。

また、授業の都度、適宜関連資料を配布する。

8. 受講上の留意事項

履修状況を見て、上記授業計画の一部を変更することもありうる。

また、理解度を見て、適切な参考文献を随時紹介する。